

暑い夏に関する 豆知識をご紹介します!

暑い夏がやってきます!

海やプール、キャンプなどのアウトドアで、出かけることの多くなる季節。夏のドライブは気持ちがいいものですが、ちょっとした雑学を知っておくと話のネタにもなり、安全にも役立ちます。楽しいことが多い反面、気温が上がりがちな近年は注意も必要! 今回はこれからの季節に役立つ豆知識をいくつかご紹介したいと思います。

くるまの ざっがく CAR TRIVIA

このコーナーではクルマに関する
気になる雑学をご紹介します。
意外と知らないことがあるかも!?

1

驚きの車内温度

夏の直射日光を浴びた車内は、想像以上に危険な暑さになります。外気温35度の真夏日に、エンジン停止後30分で車内温度は約45度に達するというJAFのデータがあります。同条件で4時間放置すると、平均車内温度は約50度、ダッシュボードは約80度近くまで上がった実験結果もあります。ペットや子どもを数分でも車内に残すのがどれだけ危険かが分かる数字です。



2

効率の良い車内の冷やし方

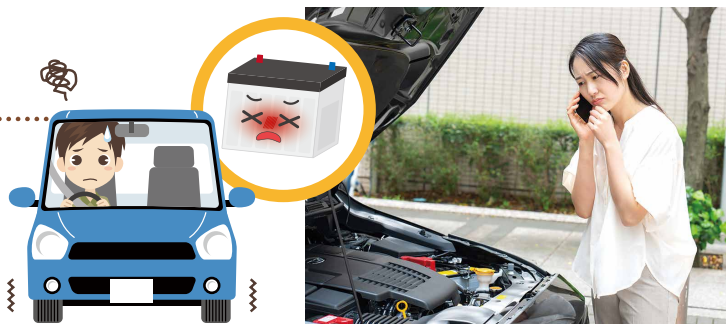
車のエアコンを全開にするよりも、少し工夫した方が早く車内を冷やすことができます。まず、走り出してしばらくは窓を開け、エアコンを「外気導入」にして車内の熱気を外に逃がします。その後、車内がある程度冷えたら「内気循環」に切り替えると効率よく温度を下げることができます。



3

夏は故障が増える!?

夏はエンジンルームも過酷な季節です。冷却水が減っていたり劣化しているとオーバーヒートを起こしやすく、夏場は車のトラブルが増える傾向にあります。バッテリーも高温に弱く、夏と冬にトラブルが集中します。夏前に冷却水とバッテリーを点検しておくとう安心です。



4

車での熱中症

車内は、外よりも熱中症リスクが高くなります。気温がそれほど高くない春～初夏でも、密閉された車内は短時間で高温多湿になり、熱中症の危険があると言われています。特にガラス面積が大きいSUVなどは日光を受けやすく、より温度が上がりやすい傾向にあります。



5

夏の車中泊の注意点

アウトドア人気で車中泊も増えていますが、夏はリスクもあります。

真夏の車中泊は、外気温が下がりにくい地域だと深夜でも車内温度が高く、熱中症の危険があります。

また、エンジンのかけっぱなしでエアコンを使うと、一酸化炭素中毒や騒音トラブルの危険があるため、注意しましょう。